

はくうんひつ おうしゅうかいどうならびに う しゅうかいどうふうけい ず
白雲筆 奥州街道並羽州街道風景図

- 1 種 別 有形文化財（歴史資料）
- 2 名称及び員数 白雲筆 奥州街道並羽州街道風景図 1 帙 2 帖
- 3 形 状 紙本著色 折本
- 4 寸 法 乾冊 縦20.0cm、横17.8cm、厚さ1.6cm、21 丁
坤冊 縦20.0cm、横17.8cm、厚さ1.8cm、24 丁
- 5 所 在 地 横手市赤坂字富ヶ沢62番地46 秋田県立近代美術館
- 6 所 有 者 秋田県
- 7 説 明

白雲は、明和元年（1764）生まれの浄土宗の画僧で、白河藩主松平定信に画才を認められ、谷文晁・亜欧堂田善らとともに『集古十種』の編纂事業にも関わった。幾度も諸国を遊歴し、文物の調査を行っている。文化7年（1810）に六郷の本覚寺に移住、文化9年に50歳で同寺の第28代住職となっている。

この折本は桐箱に収められている。安藤和風により桐箱蓋の表裏や、乾坤両冊の表紙に「白雲上人画奥羽街道並久保田藩内沿道風景写生帖」の題字などが墨書されており、和風によって現在の乾冊21図、坤冊19図の2帖に整えられたと考えられる。

風景図は、全図を通じて南画の手法がみられ、彩色は明るい色調である。描かれているのは、奥州街道から羽州街道にかけての沿道風景で、山や岩、滝、海岸線、舟渡の光景などが描かれている。藩主佐竹家の旧蔵品と伝えられ、藩内の風景は22図あり、白雲が晩年に来秋してからの制作と考えられる。

寛政から文政期にかけては、荻津勝孝の秋田風俗絵巻や菅江真澄の著作など、地方の文物を記録する文化的な風潮が見られる。本風景図もまたそのような作品の一つであり、景勝地を主として社寺や石造物、舟渡なども記録しており、当時の景観や風俗を知る上で貴重な資料である。

参考文献

奈良環之助「秋田画人伝11 画僧白雲」『あきた』通巻24号 秋田県 42-44頁 昭和39年（1964）5月1日

太田和夫「画僧白雲の作品について」『秋田県立博物館研究報告』第8号 秋田県立博物館 47-56頁 昭和58年（1983）3月30日

白河市歴史民俗資料館 『特別企画展「定信と画僧白雲—集古十種の旅と風景」—展図録』 平成10年（1998）11月1日

